


はくぶつかん

1976. 8. 1 平塚市博物館

8 月 行 事



夏期特別展

相模川流域シリーズ2
「相模川の生きものたち」

期間 8月29日まで
図録1部300円

- 7** 遺跡見学会
岡崎小学校 午後2時集合 3時解散
- 8** 特別展講演会
〃 川の鳥・干潟の鳥 〃 高野伸二先生
講堂 午後1時～3時 入場自由
- 10** 天文映画会
〃 太陽のめぐみ 〃 〃 太陽と放射 〃
〃 太陽の活動 〃
講堂 午後2時～3時 入場自由
- 13** 自然観察会
「四之宮～馬入付近の川原」
先着30名 受付で申し込み
- 14** 古文書講演会
遺跡見学会 7日を参照
- 20** 特別展映画会
〃 アユの一生 〃 〃 クモの生活 〃
講堂 午後2時～3時 入場自由

9 月 行 事 予 定

- 4** 星を見る会
小学生は父兄同伴、往復ハガキで申し込み、8月24日消印まで有効、抽せん30名
- 5** 地方史研究入門
〃 農民と訴訟 〃 青木美智男先生
- 10-11** 平塚市中学校創意工夫優秀作品展
科学教室 入場自由
- 12** 自然に親しむ会「大山」
先着30名 往復ハガキで住所

・開館して早くも3か月たちました。夏休みを迎え連日500～600人もの観覧者がおいでいただいております。博物館では、展示室以外でもいろいろな行事を行なっています。ふるつて参加ください。まだ一度もおいでにならなかつた人もぜひどうぞおいでください。

- 21** 遺跡見学会 7日を参照
- 22** 連続講演会「地方史研究入門」
〃 江戸時代の村 〃 内田哲夫先生
午後1時～3時 高校生以上で3日間参加できる人、先着30名 往復ハガキで8月18日まで申し込み。
- 26** 自然観察会
「相模川河口」3日を参照
- 28** 体験学習シリーズ4
〃 草木で染めよう 〃 中学生以上で先着30名往復ハガキで申し込み
- 古文書講演会
29 地方史研究入門
〃 天領と代官 〃 村上直先生

氏名・年令・電話を書いて申し込み
参加費100円(交通費別)

- 12** 天文講演会
〃 太陽と月の動き 〃 水野良平先生
講堂 午後3時～4時 入場自由
- 25-26** 中学校生徒理科作品展示会
科学教室 入場自由



水を浴びる

古文書講読会

五月の第2土曜日から始まり2か月を経た古文書講読会は、古文書(近世地方文書)を全く読む事ができない人々を対象にしている市民参加の研究会です。

しかし、この会は読めるようになる人を育てるだけが目的で開設されたものではありません。古文書を通して、歴史を系統的に認識するため、歴史を自ら学ぶ足がかりをこの会に参加することによってつかんで載せたいと考えている会です。

そこで参加者のみなさんに、2か月を経過した時点で1)参加の動機と2)「歴史を学ぶ」という意味について設問したその答の中から、数例をご紹介します。

- 唯杉明子 1) 博物館、展示会に展示されている古文書が、いつも読めず、読めるようになればと痛感していたため。
2) 何が歴史を動かしているのか。それを知りたい。

い。そうすることによつて、自分達の現在の生きざまを正し、さらに今後の在り方を決めたい。

- 市川彌 1) 将来歴史を勉強するにあたって、古文書が読めると何かと便利であるから。

役帳

2) 歴史を学ぶことによつて、当時の人間の息吹を感じることができるのでは。

- 福島きよ子 1) 歴史が好きで、古文書によつて昔の社会を知る事が出来るのではないかと思います。

2) 昔の社会状態を知つて、どの様にその中で人々が生きて来たかを知りたいと思います。

など、他にも貴重な答がよせられました。紙数の関係で、すべてを載せることが出来ないのが残念です。

今後、この会を参加者の皆さんと共に、平塚の歴史を自から学んでいく集団として、形あるものにしていきたいと思つています。そのため「歴史を学ぶ」ための意味を、より深く考えねばと思う今日この頃です。 (土井)

竹を使つて作つて見よう!

博物館では「自然のものを利用して作る」という体験学習をシリーズで行なつています。7月11日にはその1つとして「竹細工を作ろう」というのを行ないました。竹を使つて簡単なおもちゃを作ろうということで、参加者全員で竹トンボを作りました。



簡単に作れそうな竹トンボも、よく飛ぶようにするにはいろいろ工夫しなくてははいけません。羽根はどのようにけずればいいのか、羽根と軸とのバランスはなど、参加者のみなさんは、ふだんほとんど使わないナイフを使い、一所懸命作りしました。小さな竹トンボにも、大きな秘密がかくされているんだということを、みんながよくわかつたとはいえませんでした。それぞれ工夫し、最後に自分で作った竹トンボをみんないつせいに飛ばして、この会を終えました。

竹は、七夕のように葉のついているまま使つたり、筒のまま使つて鉛筆立てにしたり、割つて、けずれば簡単にまげることができるなど、少し工夫してみるといろいろなものを作ることができ、楽しく使うこともできます。みなさんも竹を使つていろいろなものを作つてみましょう。(小川)

参加者(敬称略)

原金治、原幸子、原太郎、原悟郎、角田直大、坪井聡、島田真人、柳川謙二、奥石武士、奥石勝治、杉崎多美子、長谷川範子、杉山登、沖野郷子、田中伸一、梯昭子、他4名

はくぶつかん VOL1 NO4
昭和51年8月1日 通巻4号
発行 平塚市博物館
〒254 平塚市浅間町12-41
TEL 0463-33-5111
印刷 平塚市総務部行政課文書係
©1976